

ささいな恐怖

届いた手紙



GIMA

ある日、私あてに一通の手紙が届きました。

以下、届いた手紙をそのまま掲載いたします。

事情を考慮し、私以外の名前は

塗りつぶし処理をほどこしました。

内容についての判断は

読者の皆様におまかせいたします。

前略中島様。

オフ会でお会いしただけの中島様に突然、こんな手紙をお送りして、もうわけありません。

でも、だれかに話を聞いてもらわないと、気が変になりそうなので、与、私は怖いんです。

この1ヵ月ほどの間に3人の女の子が連続して死んでいきます。

住所も違って、事故だったり病気でったりするので、別の事件になっていきますが、みんな、殺されたんです。書いてある事からめっちゃ嫌なのはわかっています。でも私は狂っていません。いえ、もう狂っているかも知れませんが、~~全部~~全部本当の事です。

最初の事から書きます。

10月の連休に、富士五湖へ1人で旅行に行きました。泊まったのはユースホステルで、4人の相部屋になりました。

同じ部屋に泊まったのは長野の~~田中~~さん、和歌山の~~田中~~さん、福島の~~田中~~さんの3人で、偶然にもみんな私と同じ高校生で、1人旅でした。簡単な自己紹介だけですぐに親しくなり、次の日の富士五湖観光もすぐに決まりました。

観光バスで麓白糸の滝や青木ヶ原の樹海を回るコースでした。

青木が●原といえど、どうしても自殺の名所というイメージがあります。

私たちは自殺した人をネタにしてギャグを言いあいました。

「ここに迷い込んだら助からないって言うんじゃない？ほんとにそうなのかなあ。方向が今だけじゃないの」

「ここ、心霊写真がよく写るんだって」

「写ったら投稿よか。あ、売れるかな？」

私たちは大笑いしました。

ユースに帰ってから、私たちが青木が原に行ったその前の日に、自殺した人の死体が見つかった事を、ヘアレントさんから聞きました。

だからその夜、そんな事がある気になったのかも知れません。

言っていたのは、福島の人だとは思いますが。

「ね、ゴウリさん（ようか）」

~~た~~さんがオカルト好きだというのは、なんとなくわかっていて、別にびくびくしたりしませんでした。びくびくしたのは、私も含め、誰も反対しなかった事です。

あつという間に用意ができました。11ろは48文字や数字、「はい」、「いいえ」等（7、島居なご）が書かれた紙・・・それを10円玉が1枚。

コッリエンは3人下します。私は110入る事にしました。

「・・・たれを呼ぶの？」

「決まってるじゃない。きのう青木が原で見つかった人よ」

あたり前の事をきくほと言うように、~~相本~~さんが言いました。

オカルトに詳しい ~~大木~~エンがコッリエンを呼ぶ役でした。

「コッリエン コッリエン、お願いします。どうぞ私たちのところにおいで下さい。」

何回それをくりかえした下しよか。

110のまにか、3人は声をそろえてコッリエンを呼んでいました。目が普通じゃないように見えました。

その時、10円玉が3111に「はいのところに来ました。」

全員が息をのみました。

「あなたには、青木が原で七くなった方ですか？」
10円玉は「はい、のところのまま動かせませんでした。」

こんなに都合よく、思った通りの霊が叫べる物なんだろうか。私は内心疑問下したが、10円玉が動いたのは確かです。

「あなた ~~は~~ なせ 死んだのですか？」

青木が原は自殺の名所です。「いつ」になると思いました。

ところが、「こ、ろ、さ、れ、た」と動いたのです。

「殺されたって、あの、犯人は...?」

10月が動きました。

「う、ら、む」

「うらむって?」

~~大~~さんが聞きましたか: 10月は同じところばかりをくり返し動きました。

「う、ら、む」「う、ら、む」「う、ら、む」

「う、ら、む」

「どうか、気を静めて下さい。お願いします」

~~大~~さんが必死に言いました。

「... ねえ、もう帰ってもらったら?」

~~大~~さんが小声で言いました。怖くなったんだと思います。

~~大~~さんもうなづいて言いました。

「ありがとうございまして。どうぞ、鳥居へお戻り下さい」

10月が、と何も書いていないところへ行き、

動かなくなりました。

「帰ったの?」

「... まだだと思おう。鳥居のところで止まらな

いと」

「あっ」
全員、思わず声を~~さ~~上げてしまいました。

10月が動いたんです。

「つ、ぎ、は、お、ま、え、た」

「次はお前だ」って言うてる！」

10円は3回ほど「つきはおまえた」と動いてから、今度は、小さくぐるぐるを回りました。「お願いです！お戻り下さいっ！」

みんなの顔色が真青になっていました。

とすると、よくみんな事ができたと思いきや、ぐるぐる回って止まらなくなった時、私はとさに、10円を紙の上から払い飛ばしました。「はうっ」というような声を上げて、3人が顔を上げました。

「...なんて事するのよ。鳥居に戻ってないのに...」

~~おれ~~さんが言いましたが、私も言い返しました。

「何言ってるの、あのまま続けてたら、どうなったかわかんないじゃない！」

結局、それでゴツリさんは終わりました。

私たちは次の日の朝、別れました。別にけんかしたわけではなかったのですが、何か、気まずい感じでした。

それでも、みんなが撮った写真などを送るため、おたかひのアドレスや携帯番号は残しておきました。

私たち4人が体験した事は、これだけです。

オカルト好きの福島の~~おれ~~さんが死んだのを知ったのは、偶然でした。

旅行から帰ってきて2週間ぐらいた頃、家の

古新聞をたばねていた時、その記事に気が
つきました。

ミニバイクに乗っていて、左折してきたトレーラー
に巻き込まれたという事でした。即死だった
ようです。

日付は3日前でした。

あの時のゴックリさんの言葉、「つきはおまえだ」
が頭に浮かびました。

やはり、次に死ぬのはお前だという意味だっ
たのでしょうか。

それから注意してニュースや新聞を見るように
しましたが、覚えのある名前は見かけませんでし
た。福島の~~本~~さんには悪いのですが、私はほと
といていました。

やはり偶然なんだ... そう思いました。

和歌山の~~和~~さんから電話がかかってくる
のはそんな時でした。

「長野の~~本~~さんが死んじゃった！」

いまは~~和~~さんと言いました。

「どうして！」彼の声は悲鳴のようでした。

「いるっ？ なんで死んだの？ 事故？」

「さきおとしい！ 心臓マヒで！ きのう~~本~~さ
んの家で電話したら、お母さんが出て、夕方、
急に胸が苦しいって言って、救急車で病院
に行ったけど、ダメだったって。やっぱりゴックリさ
んのたたりなんだ！」

「何でこうなるのよ！ 偶然かも知れないしや

ない！」

「だって福島の人**〇〇**さんも死んだじゃない！」
私は一瞬、絶句しました。

「・・・知ってたの？」

「長野の人**〇〇**さんから電話かかってきたの。死ぬ
2日ぐらい前。福島の人**〇〇**さんの次は私かも知
れないって。人**〇〇**さんは、福島の人**〇〇**さんから『私
もうすぐ死ぬかも知れない』って言う電話を受
けたんだって」

「どうして人死んだら次が死なないといけないの
よ！ 自殺ならともかく、事故とか病気では？
偶然よ！」

正直に言うと、そういう私自身、とても偶然だとは思
いませんでした。

「・・・信じないのね」

人**〇〇**さんは言いました。

「信じないなら、みんなで見つかる写真、見てみ
なさいよ！」

そう言って、人**〇〇**さんは電話を切ってしまいました。
写真というのは、自らの手で、人に写してもらっ
た4人で写っている写真の事です。

私は机の引き出しに入っているその写真を出しま
した。

見た瞬間、私は氣を失いました。

写真には和歌山の**人〇〇**さんと私1人写っていません
でした。

福島の**木下**さんと長野の**木下**さんが立っていた所は、ほろかりとあっていました。2人は写真から消えていました。

和歌山の**木下**さんが死んだのは、電話の3日後でした。

中島様もニュースや新聞で見られたかも知れませんが、殺されたのです。

犯人は**木下**さんと何の関係もない人で、通り魔殺人でした。

覚醒剤中毒で、錯乱状態だったという事です。和歌山市内の繁華街で、わけのわからない事を叫びながら暴れまわり、たまたまそこにいた**木下**さんを、持っていた救急身包丁で刺したんです。犯人は**木下**さんを刺す時、こう叫んだそうです。

「次はお前だ！」

あの時の4人で生きているのは、もう私だけになりました。

自らの滝の写真には、私が1人ではここに立っています。

人が見たら、へたくなな写真と思うでしょう。

さっきから、1行書いては、ぼーっとしています。

ちょっと気持ち悪いんですけど、ぼーっとしている時、いつの間にかカッターナイフを手には持っています。

カッターの刃をカチカチ出(け)しながら、与那
が死んだらノローゼのせりたてみんじな思うた
ろうなあ、と考(かん)えたりします。

もちろん自殺(じく)あるつもりなんてありませんけど。
もし和(わ)が死(し)んだら、それで終わ(お)るんでしょうか。
それとも、与(よ)は別のたれ(た)れが死(し)ぬ事(こと)にな

